

かつて海を照らした灯明台 今はひっそりと佇んでいる



船橋大神宮に佇む灯明台

船橋大神宮にひっそりと佇んでいる灯明台を知っているだろうか。千葉県指定有形民俗文化財に指定されている和洋折衷のモダンな建物だ。1、2階は和風、3階は西洋式灯台のデザインを取り入れている。昔は灯明台ではなく、常

夜燈が海の漁師たちを暗闇から助けていたが、19世紀の戊辰戦争で無くなってしまった。住民たちが再建をのぞみ、1880年にはこの灯明台を作り上げたそう

だ。その当時の最新式で光は11メートル先まで届いた。日本は神社やお寺などが



祠近くで説明する坂本さん



三番瀬を前に解説する小澤さん

船橋浦は今、三番瀬とい

水汚濁によるものだが、後

受け継がれていく文化財

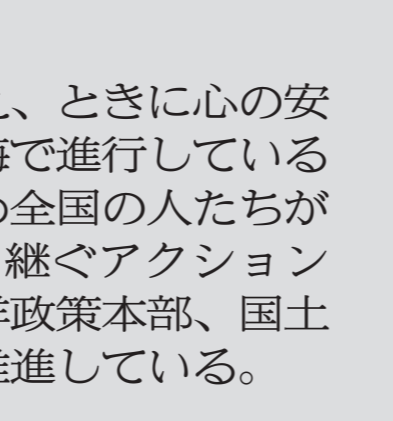
昔から伝えられた思い

船橋市内の児童が、地元で伝わる民話「雪どけ塚の白へび」をテーマに取材や写真撮影など新聞制作に挑戦した。日本財団などオールジャパンで推進する「海と日本プロジェクト」の一環で、国内に残された海にまつわる「民話」「伝承」を選定し、子どもがさらに次世代へと伝える機運醸成を狙っている。船橋市立大穴北小学校5年の秋元日和さんが執筆した紙面を紹介する。

「雪どけ塚の白へび」の

とから「雪どけ塚」と呼ば

船橋浦が抱えている課題 私たち一人一人が守る



「雪どけ塚の白へび」のワンシーン

雪どけ塚の白へび

昔、夏見城を囲む土塁の近くに「雪どけ塚」と呼ばれる不思議な小高い塚があった。松の木の根元の穴に住む白へびは夜になると姿を現し、光る目の美しさや、やさしく気品のあるたずまいで村人を魅了していた。ある日、出漁していた漁師が嵐に遭い、沖に流された。遠方に見つけた青い光を白へびの目だと信じて死に物ぐるいでかいをこぎ続けた…。

編集後記

新聞取材は 発見がいっぱい

船橋市立大穴北小学校5年
秋元 日和さん

私は毎年夏近くに来るこの企画ボスターを見て参加しました。この雪どけ塚の物語の企画の中でも特に取材が面白かったです。

この企画は関係ない為、載せていませんが長福寺へ取材に入った時、一番最初に見えたのは2台の



秋元日和さん

このため、取材といっでも話をただ聞く訳ではなく、その場での発見があったり、また全身を張って体験したりすることも必要となってきて、新聞取材の楽しさが伝わっています。

海と日本プロジェクト

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、ときに心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海で進行している環境の悪化などの現状を、子供たちをはじめ全国の人たちが「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、日本財団、総合海洋政策本部、国土交通省の旗振りのもと、オールジャパンで推進している。

